

### 3 まちづくり方針

ここまで整理した「中心市街地活性化の方向性」を踏まえ、大子町の中心市街地において進めるまちづくりの「目標」や「基本的な方針」を次のとおりとします。

#### 3-1 中心市街地活性化の目標

大子町は、日本三名瀑の1つである袋田の滝をはじめ、県内最高峰の八溝山や男体山の秀峰、久慈川の清流、奥久慈温泉郷などの観光資源が豊富であり、また、蒟蒻、茶、りんご、しゃも等の多くの特産物に恵まれていることにより、年間100万人の観光入込客を数える県内有数の観光地となっています。

また、町民生活に関しては、平成19年6月に読書を通じて心の豊かさを育み、読書の素晴らしさを全国に発信するまちづくりを目指す「読書のまち」宣言を行い、文化の向上に取り組んでいます。

一方で、大子町は、県内で唯一町内全域が過疎地域に指定された自治体であり、住民の高齢化により、医療費の増大による財政負担の増加や、若者流出による後継者不足により産業の衰退や自治会活動の低下などが課題として顕在化しています。

そこで、本計画では、町民の暮らしの中から大子町に合った観光スタイルを検討するとともに、町民の知的好奇心を刺激する場を生み出し、住民同士、住民と観光客が集い交流できる空間の創出をきっかけとした、中心市街地の活性化を目指します。

交流人口を活かし、観光を意識した市街地転換を図ることで過疎化への歯止めの一助とする

#### 年間100万人の観光客を市街地に誘客

- ・地域資源を活かし、市街地観光を促進
- ・特産品を活かし、産業や人材を育成

#### 中心市街地活性化

- ・産業の活性
- ・交流、定住促進
- ・歴史文化の継承

#### 住民の暮らしを良好に保つ

- ・暮らし方の再発見
- ・イベント等による住民同士の交流を促進

大子町の中心市街地には、深い歴史と文化、何代にも渡り守られてきた生業があります。まちなみは、どこか懐かしい昭和の風景を醸し出し、奥ゆかしい路地や奥久慈の美しい山並みと水の風景に囲まれています。

そこで、これら既存の地域資源の活用と、無理のない新しい要素を町に取り込むことで、今まで守られてきた古き良き大子町を未来に繋げるため、中心市街地活性化の基本目標を以下のように定めます。

**【基本目標】**

**「歴史と文化と生業（＝大子の暮らし）を守り、伝えることで、**

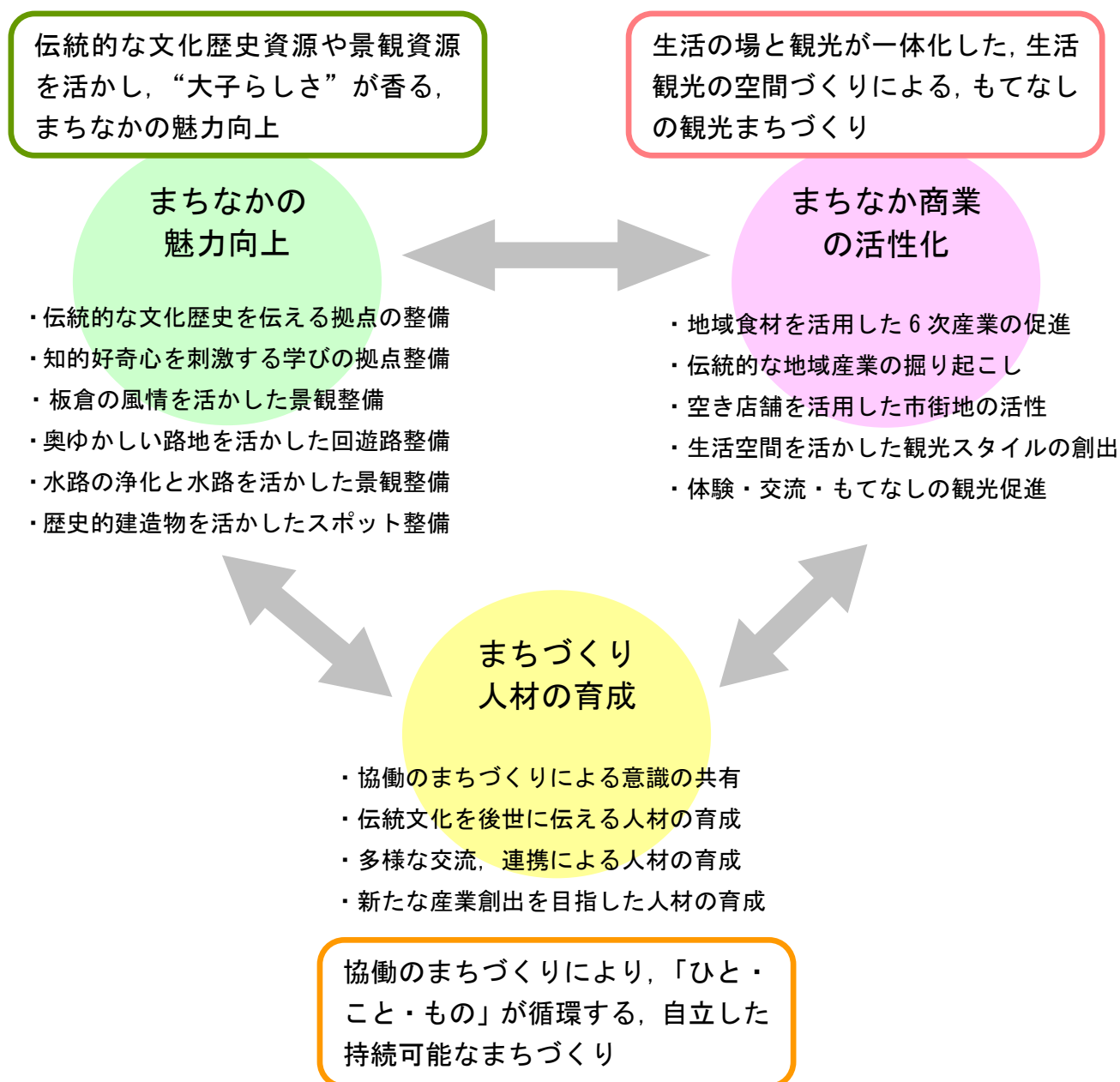
**大子の新しい未来を創造する」**

時代の栄枯盛衰を経て、現在に至るまで、大子町の歴史や文化、生業は、住民によって守られて来ました。しかし、少子高齢化の波を受け、伝える人、伝えてもらう人の双方が減少し、大子町の素晴らしい地域資源を今までのように守り続けることは困難になる時代が、今そこまで来ています。

そこで、それらを次世代に確実に伝える仕組みを現段階から構築しておくことで、大子町の未来を守ることが出来るのではないかと、また、それ自体が観光の要素となり得るのではないかと考えます。

### 3-2 中心市街地活性化の基本方針

大子町の中心市街地の活性化を目指すうえで、住民の暮らしを良好に保つことと、観光客に市街地を楽しんでもらうこと、という二つの側面を同時に考えていく事が大切です。また、観光を意識した市街地への転換を実現するためには、人材や産業の育成も重要となります。それらの考え方を基に、まちづくりの基本方針を以下に示します。



### 3-3 中心市街地活性化基本構想図

